

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議  
(だい 1 3 期 だい 1 ねん だい 4 かい だい 2 日)  
ぎじろく  
議事録

1 日時 2021 (令和3)年2月21日(日) 午後1時30分～4時45分

2 場所 オンライン会議

3 出席者

(1) 代表者 24人

アディテア ワルマン、カイ イーモンタン、金 海花、グエン  
テイトウちゃん、児玉 ノンティシャー、許 成龍、シン バスカ  
バハドール、スチエタ スリニヴァサン、池 垠伊、張 亮、チョ チョ  
カイン、ドウマヤス アリヤン、バテネフ アルチョム、ペレーラ ラヒル  
サンゲータ、ポール ウツザル クマル、前田 喜与美、ムハマド アイマン  
アリフ、ユデク マルチン、尹 智夏、李 歆歆、劉 愛玲、レイバーマン  
ケビン、和田 恵麗奈、ンディアエ マリ カテリン

(2) 事務局

小川 課長、佐藤 課長補佐、日下部 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 1人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 議事

(3) 閉会

## 【国際コミュニティ部会】

前田部会長「それでは部会を始めたい。まずは、事務局から今日の会議について説明をお願いします。」

(事務局日下部職員が説明)

前田部会長「それでは、今日は地域貢献について審議したい。事務局から説明をお願いします。」

(事務局日下部職員が資料3に基づき説明)

前田部会長「何か質問はあるか。(なし)では、意見はあるか。」

張副委員長「アンケートで地域活動に参加したいが、参加していないという人が約5割いて、ボランティアや地域貢献したくても、それが結びついていないのではないか。情報提供を自分からとりに行くプル型ではなく、プッシュ型にしたらよいのではないか。横浜市国際交流協会では、メーリングリストがある。たとえば、代表者会議で新しく団体をつくってメーリングリストなどで情報発信するのはどうか。」

シン委員「川崎市のFacebookでグループをつくって、そこで集まった人を中心に活動を始めたらどうか。」

ンディアエ委員「横浜市の取組を川崎市でも参考にしたらよいと思うが、そのときに区役所と協力・連携して、区役所にポスターなどを貼ったら手続きに行った外国人もポスターを見てメーリングリストに登録するかもしれない。」

許委員「アンケート結果は尊重すべきだと思うが、分析は慎重にした方がよい。今は、情報発信に問題があるという前提で話が進んでいるが、本当にそうなのか。」

グエン委員「いろいろな団体や町内会もあるので、新しい団体をつくるというのではなく、今ある団体の連携を深めたり、そこで活動している人たちに話を聞くとよいのではないか。」

チョ委員「私は、今までいろいろなボランティアをやってみた。たとえば、今は宮前小学校の寺子屋先生をやっている。そのコーディネーターと話したのは、外国人の親が参加できればよいが、そもそも日本人のボランティアも不足している。みなさん、定年になってからボランティアをしたりしているので、年齢的に若くない。ほかにも、一昨年には多摩市民館の識字ボランティアの募集にも行って見たが、やはりいろいろなところでボランティアが必要だと感じた。これから新しくつくるのもよいが、今あるもので情報交換をしたり、

まずは1人ひとりができることから始めたらいいのではないか。」

池委員「地域活動に参加したいと思う外国人住民が約50%いるということだが、個人的には参加したい人を全員参加させる必要はないと思う。参加したい目的も、交流イベントに参加して早く地域になじみたいというものなのか、さらに進んで地域貢献したいというものなのかわからない。私がこのテーマを提案した趣旨としては、川崎市に長く住んでいる人が、自分の経験やスキルなどを提供できる場があったらよいと考えたからだ。」

李委員「以前、東京に住んでいたときに小学生支援のボランティアをしていた。その先生が留学生の人たちの名簿とメーリングリストの管理をして、小学校から相談が来たら派遣をしていた。誰かが名簿やメーリングリストを管理しなければいけないし、個人情報管理をどうするのかということも課題として考える必要がある。」

アディティブ委員「私は川崎に13年住んでいるが、ボランティア活動ができる場を知らなかった。参加したいのにできない理由としては、コミュニケーションの問題があるだろう。それでも、川崎市に来たときにメーリングリストのようなものがあるのはよいと思う。」

尹委員「子どもが小さいときに、こども文化センターでよく遊ばせていた。最近、新聞で子どもの居場所がないという記事を読んだ。たとえば、私たちが学校やこども文化センターなどに行って、遊んであげるのはどうか。そのためのシステムがあるとよい。」

事務局高橋専門調査員「許さんが指摘したことがとても大事だ。参加したいが参加していない人が約5割いるが、参加していない理由はさまざまだ。たとえば、普段は仕事をしているので時間がとれないとか、休日は休みたいとか、家族と過ごしたいとか、参加していないは、参加できていないとは違う。そして、情報発信の前に、何が課題なのかを具体的にみつける必要がある。たとえば、チョさんは実際にボランティア活動をされている。では、活動している人はどうやって情報を手に入れたのか。逆に、活動したいのにできていない人は、どうやって情報を探しているのか。本当に情報を探したのにたどりつけないのは問題だが、探していなければ見つからないのは当然だ。もっと具体的な経験をふまえて考えることが大事だ。」

前田部会長「事務局に質問だが、代表者会議で市民祭りや多文化フェスタさいわいなどに参加しているが、これは依頼が来ているのか。」

事務局高橋専門調査員「まず、市民祭りに関しては、代表者会議よりも前からあったので、すでにイベントを知っているなかで代表者会議が交流やPRをする場として参加しようということになったと思う。多文化フェスタさいわいなどのイベントは、代表者や事務局が情報を見つけてきて、会議で話し合っただけで参加を決めている。例年参加しているものだと、関係性ができているものもあるが、正式な依頼が来ているわけではない。」

前田部会長「麻生区でもフェスティバルが開催されるようになっていて、私に個人的に声をかけていただいている。正式な依頼をいただいて参加しているというわけではないとのことなので、みなさんで話し合っただけで参加できたらと思う。」

許委員「事務局に質問だが、かわさき市民活動センターやボランティア活動振興センターなどが、中原区にあるのはなぜか。」

事務局日下部職員「川崎市の地形的な問題で、中原区が真ん中にあることも一因だと思われ。」

前田部会長「そろそろ時間なので、地域貢献についての審議はここまでとしたい。次回の予定について事務局から説明をお願いする。」

(事務局日下部職員が説明)

前田部会長「次回の行政主導でのオンラインコミュニティの構築について、審議したいことや資料のリクエストはあるか。」

張副委員長「多文化共生推進課のFacebookとTwitterがあるが、その課題と今後の計画を教えて欲しい。双方向のやりとりができないか。」

スチエタ委員「YouTubeやLINEを使う予定はあるか。」

事務局日下部職員「運用ポリシーとして、FacebookもTwitterも基本的には情報発信に特化した一方向のツールだ。コメントなどをいただいてもリプライはしないし、フォローも返さない。」

事務局高橋専門調査員「次回のテーマには3つのキーワードがある。1つ目は行政主導、2つ目はオンライン、3つ目はコミュニティだ。このなかで軸になるのはコミュニティで、そこから離れてオンラインツールの話になってしまうのは違うのではないか。逆に、コミュニティという話であれば、異文化交流や地域貢献というテーマとも重なる部分があると思う。」

スチエタ委員「今の説明を聞いて、YouTubeやLINEの話は資料になくてよい。」

前田部会長「ほかに何かあるか。(なし)それでは、事務局から事務連絡をお願い

いする。」

## 【事務連絡】

- ・年次報告書について
- ・オンラインアンケートと参考人の招致について

前田部会長「何か質問はあるか。（なし）それでは、年次報告書について修正があれば2月23日までに事務局にメールで連絡をして欲しい。以上で、国際コミュニティ部会を終わりにする。」

## 【安心生活部会】

児玉部会長「それでは、会議を始めたい。まずは、事務局から今日の会議について説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が説明）

児玉部会長「それでは、今日のテーマは保育園・幼稚園についてだ。まずは、事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料4-1、4-2、4-3、4-4に基づき説明）

児玉部会長「何か質問はあるか。」

バテネフ委員「確認だが、保育を必要とする事由の月64時間以上の就労というのは、共働きのときは2人で64時間になるのか。」

児玉部会長「1人64時間以上だ。」

ペレーラ委員長「待機児童の数が、実際の数よりも少ないと思うのだが詳しく説明して欲しい。」

レイバーマン委員「川崎市は若い家族が増えているので、保育の対応は大事な課題だと思う。施設を増やすことや保育料については、日本人とも共通の問題で、外国人だけが抱えている問題ではない。この会議としては、外国人の視点から何か貢献できることを考えるのがよいのではないか。」

児玉部会長「ほかにあるか。（なし）それでは、保育園・幼稚園についての審議はここまでにしたい。次回の予定について、事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が説明）

児玉部会長「何か資料のリクエストはあるか。」

ユデク委員「DVDについては、私が提案した。災害についての知識がないと、そもそも調べられない。私のイメージとしては、川崎市に引っ越してきたとき

に区役所でDVDを見せたら意識が変わるのではないかと思う。」

事務局高橋専門調査員「川崎市に来たときに災害に関する知識や情報を知ってもらうことが大事だという意見だと理解した。そうだとすると、その方法はDVDでなくてもよいか。」

ユデク委員「それでよい。DVD以外の方法でもよい。」

バテネフ委員「災害や地震などのときに、まちのなかで流れているアナウンスは日本語のイメージが強いが、英語でもあったりするのか事実を確認したい。」  
レイバーマン委員「以前の台風で多摩川が氾濫したりした。多言語のハザードマップがあるのか知りたい。」

児玉部会長「災害時の観光客への対応はどうなっているのか。何かできることがあるではないか。」

事務局高橋専門調査員「以前の代表者会議でも同じ議論があったので紹介する。川崎市としては、災害時の観光客への対応も大切な課題だ。一方で、以前に議論したときは、日本に住んでいる外国人の人たちにとっての課題があるとすれば、この会議ではそちらを優先して審議すべきではないか、ということになった。」

ペレーラ委員長「先週、地震があつて停電になったときに私のところではアナウンスが流れなかった。流れたり、流れなかったり、バラつきがあるのか。何か基準があるのか。」

ドウマヤス委員「災害が起きて、たとえば家が壊れたときにどういった支援があるのか知りたい。」

児玉部会長「災害が起きて外国人が亡くなったらどうなるのか知りたい。」

事務局高橋専門調査員「それは個人的な疑問か。何か具体的に問題や課題があるのか。この会議は、個人的な疑問を解決するためのものではない。」

児玉部会長「了解した。個人的な疑問なので資料はなくてよい。話が変わるが、神奈川県にLINEに登録をしたら、毎日のコロナ感染者数のお知らせが届く。同じようなことができるよいか。ほかに何かあるか。（なし）では、事務局から事務連絡をお願いする。」

## 【事務連絡】

- ・年次報告書について
- ・オンラインアンケートと参考人の招致について

児玉部会長「何か質問はあるか。（なし）それでは、時間になったので、安心して生活部会を終わりにする。」